

Get Heart

NO **32**
2005.11



特集

日野川を日本一美しい川に
～日野川の源流と流域を守る会～

学校紹介

「河童伝説」の伝わる町で
川の美しさと自然を学ぶ
黒坂小学校

日野川「もの知りさんに聞いてみよう 19」
平成 17 年の渇水について



イベントあんない

INFORMATION



●南部町

「全国柿の種吹きとばし大会」

平成17年11月23日(祝)
南部町農業者トレーニングセンター
問い合わせ先……南部町企画政策課内
「柿の種吹きとばし大会」事務局
TEL 0859-66-3113

●伯耆町

「岸本きないや祭り」

平成17年11月19日(土)・20日(日)
問い合わせ先……伯耆町商工観光課
TEL 0859-68-4214

「柳水スキー場開き祭」

平成17年12月23日(祝)
問い合わせ先……伯耆町商工観光課
TEL 0859-68-4214

●日野町

「金持神社初詣」

平成18年1月1日～1月5日
問い合わせ先……日野町役場産業振興課
TEL 0859-75-0331代

●江府町

「奥大山スキー大会」

平成18年1月下旬
奥大山スキー場
問い合わせ先……江府町教育委員会
TEL 0859-75-2223

Get heart プレゼントクイズ

問題：○○には何が入るでしょうか？

〆切 12月10日

日野川には、河童を意味する方言を名前にした「○○○ふれあい公園」があります。 ヒント：日野町には、河童を意味する“カワゴ”という方言があります。

プレゼントをご希望の方は、官製ハガキに、クイズの答え、住所・氏名・年令・電話番号、Get heart に関するご感想を記入の上、下記までご応募下さい。抽選にて、5名様に粗品をさしあげます。
※当選者の発表は、発送を持ってかえさせていただきます。

〒689-3537 米子市古豊千 678
国土交通省 日野川河川事務所 ゲットハート クイズ係

編集後記

うだるような暑い日々をなんとか乗り切り、やっと過ごしやすくなってきたと思ったらもう11月です。

今年の夏を振り返ると、暑さを避けるため、外にほとんど出なかった事もあり、特にこれといった「夏の思い出」は残っていません。みなさんは、海水浴バーベキュー、お祭りなど、楽しい「夏の思い出」は作れましたか？

まあ、夏だけが楽しい訳ではありません。秋だって食欲の秋、読書の秋などと言うように、楽しい事はできます。

「夏の思い出」を作れなかった方は是非、秋の味覚を満喫してみてくださいはいかがでしょう。

S. Y

あなたのこころを

GET HEART

GET HEART 第32号

発行
・日野川への想いを語る会

編集事務局
・国土交通省日野川河川事務所

〒689-3537
米子市古豊千 678
TEL (0859) 27-5484

ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa>

「川」について、意見、質問、要望、何でもええけ、便りごしない。待ちちょうけんね。





水の中のオッチング

—表紙「緑水湖」秋の彩り—

対岸の一方通行の道を行くと、写真のようなポイントに着きます。秋は特に美しく山水の美を見ることができます。小さな島々の草紅葉が鮮やかです。

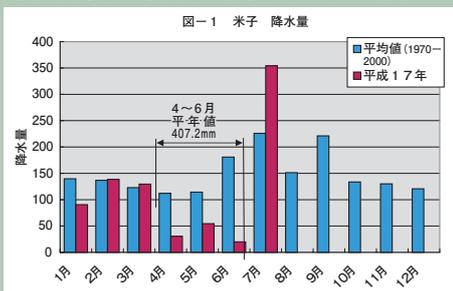
第7回 日野川フォトコンテスト入賞作品 一般Aの部 銅賞 小谷 元伸さん
撮影場所：緑水湖周辺

日野川流域 ものしい手帳

日野川、 もの知りさんに聞いてみよう・19

平成17年の^{かつすい}渇水について

日野川では、4月～6月末にかけて降雨が少ない状態が続き、米子の降雨量は、4月～6月に平年値の407.2mmに対して、今年は、105mmとわずか26%の降雨しかありませんでした。特に6月は、鳥取県内で気象台が観測している15地点のうち10地点で、最少降



雨の記録を更新するなど記録的な小雨でした。このため、5月20日頃から川の水が減り、平成6年の渇水以降、約10年振りの本格的な渇水となりました。

国道9号線日野橋下流の車尾堰では、この堰から下流に水が行かないなど、アユ等の魚類が川をさかのぼることが出来なくなることが続きました。5月20日～6月30日の42日間に36日間も越えない日がありました。



越流しない車尾堰

渇水の影響で死んだ魚(車尾堰下流)

また、米川用水では、日野川から取水できる水が減り、農業用水が不足したため、米川上流域にあたる米子市内の用水を制限し、境港市一帯に水を供給する番水が実施されるなど、川に水が少なくなったことにより、生き物や生活に悪い影響がでました。

川の水が減ると、川の水を利用している人たちは水を取ることが出来なくなります。

このため、河川管理者、川の水を利用している人たちが集まり、水を取る量をどのようにするのか相談しながら水を利用することになります。

日野川では「日野川流域水利用協議会」を組織しており、今回の渇

水では、表-1に示すように水を取る量を削減する調整を行いました。

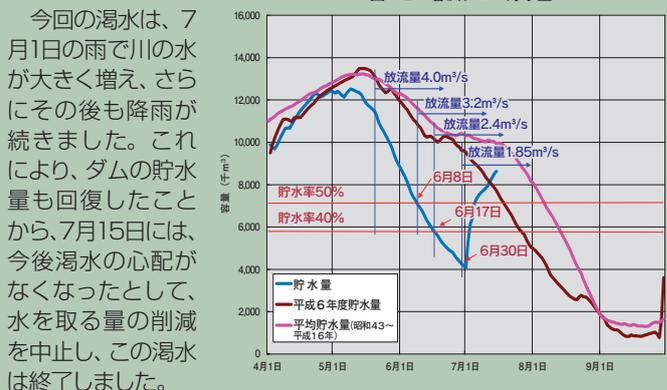
回数	開催日	概要
第1回	6月7日	農水・工水・上水を5%削減
第2回	6月16日	農水・工水・上水を20%削減
第3回	6月29日	農水・工水・上水を35%削減
解除	7月15日	削減を解除

表-1 取水量の削減状況

日野川には、菅沢ダムや賀祥ダムのように、水の使用量が少ない時期や水の多いときに貯めた水を、水が少なくなったときに放流し、川の水を増やすことを目的としたダムがあります。

今回の渇水では、菅沢ダムの場合、放流を最大毎秒4m³（一日当たり直すと、35万m³、ドラム缶173万本）行うことにより渇水被害を低減しています。

しかし、ダムからの放流を続けると、当然ダムに貯まった水も減っていき、最後には、ダムが空になり川の水を増やすことが出来なくなることから、長期間放流が出来るよう「日野川流域水利用協議会」で話し合われ、放流量を減らす措置が取られました。



日野川の年平均降水量は、約1,800mmと全国平均とほぼ同じ程度の降雨があります。しかし、このたびの渇水のように降雨が少なくなると貯えたダムの水も限りがあり川に水が流れなくなります。川に水が流れなくなれば、市民生活や経済活動に大きな支障が生じ、川に棲む生物に大きな影響を与えます。

水は限りある資源です。大切に使いましょう。

私たちが多くの恵みを受けている日野川を日本一美しい川にしようと活動されている『日野川の源流を守る会』の事務局にお話を伺いました。

『日野川の源流と流域を守る会』は、「日野川の源流と流域の自然を守り、より良い環境として次の世代へ引き継ぐとともに、日野川を日本一美しい川にする」ことを目的として平成14年4月に設立されました。

会では、次の活動方針のもと「森林を守る活動」、「川と海を守る活動」、「普及啓発活動」を行っています。現在の会員数は720人です。

活動方針

- * 上流(山)から下流(海)まで、相互に連携した取組の展開
- * 日野川の源流と流域の自然や文化を「知る・親しむ」活動とともに、森や川を「守り育む」活動の積極的な展開
- * 地域資源を活かした持続可能な「資源循環型・自然共生型の流域社会づくり」に向けた活動の推進

森林を守る活動

私たちが生活する上で不可欠な「水」は、「森」を源にしています。元気な木々や草が茂っている山からは、澄んだ美味しい水が湧き出てきます。しかし、森が枯れ、山が荒れれば川の流れは絶えだえになるでしょう。私たちが山から多くの恵みを受け続けるためには、豊かで健全な森を育てていかなばなりません。そのために、森林の生態的知識や間伐などの森を育む作業技術を学びながらボランティア活動を行っています。



「源流森林塾②」

溪流沿いの森を再生させるため、広葉樹の植栽を行っています。



「源流森林塾①」

間伐作業に必要なチェーンソーの安全な使い方を学びながら間伐ボランティア活動を行っています。

川と海を守る活動

日野川の環境をより良くするために清掃などのボランティア活動を行っています。



「日野川の清流を守るボランティア活動」

7月の河川愛護月間に合わせ、日野川の清掃を行っています。



普及啓発活動

源流域の自然や人工林の様子、森林の働きなどについて現地体験を通して学び、森林を守り育てることの重要性を啓発しています。



「源流の森を訪ねる旅」

源流の森を訪ねて、動植物の観察、森林の水源のかん養機能、森の暮らしとの関わりなどを学んでいます。

「神話とタタラの里を訪ねる旅」

かつて日野川流域で盛んに行われていた「タタラ製鉄」の歴史・文化をこれからの地域づくり・森づくりに活かしています。



このほかにも・・・

次の時代を担う子どもたちに日野川の源流域の自然環境・生活文化について野外体験を通して学んでもらっています。また、森や川・海を守る活動を広めるため、講演会やセミナーなどを開催しています。



(森と川の楽校)



(講演会活動)

お問い合わせ/入会申込み先

日野総合事務所農林局林業振興課内
日野川の源流と流域を守る会 事務局
TEL 0859 - 72 - 2021
FAX 0859 - 72 - 2125
〈年会費: 個人1,000円 / 法人5,000円〉

川で学ぼう

～川とふれあう学習～

「河童伝説」の伝わる町で 川の美しさと自然を学ぶ

黒坂小学校

古くから「河童伝説」が伝わる日野町は、河童を意味する方言の「カワコ」を名前に付けた「カワコふれあい公園」が地域のシンボルとして整備されるなど、地域に住む人たちの「河童」と「川」への愛着がとても強い町です。

この町にある黒坂小学校では今年、「日野川の水はきれいかな？」をテーマにして3・4年生の総合学習を進めています。これまでに日野川の河口から上流までの水質を調べたほか、この夏には川にすむ昆虫調べも行いました。

このときの様子について、担当した末次邦彦先生は「せっかく日野川の近くに住んでいるのに、川には魚しかいないとイメージしている生徒が多かったです。「調べ学習」の時には、川の中に入って石をひっくり返して、石の下にべったりとついている虫に驚いたり、私のところに岩ごと持ってきて『これは何ですか?』とたずねてきたりと、生徒たちは大はしゃぎでした。中には、やぶの中にゴミがあるのを見て



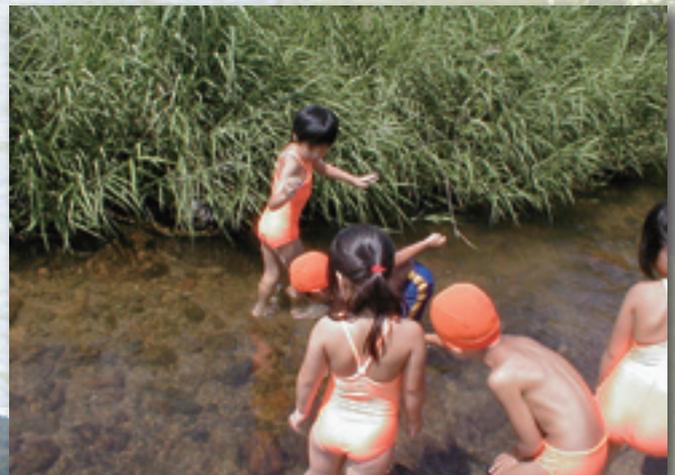
日野町立 黒坂小学校

創立は明治6年で、学制発布とともに上菅学校と黒坂学校として開校し、その後の統合で平成13年に黒坂小学校になりました。現在の児童数は50名(平成17年5月1日現在)。「やさしき」と「かしこき」と「たくましき」を育み、心豊かで生きる力を備えた児童の育成」を教育目標として、「人を思いやり、助け合い、感謝する子ども」「人の話をよく聞き、自分でよく考え、判断する子ども」「最後まで取り組み、自分を伸ばす子ども」「日本や外国の文化と伝統を大切にする子ども」の育成を目指しています。

驚いて、ゴミひろいに没頭していた生徒もありましたよ」と、子どもたちが体験した日野川の自然との出会いの様子を話しています。これらの学習を通じて「日野川の水はきれいだな」と理解した生徒たちからは、「今度は日野川の源流に行ってみよう」という声もあがっているそうです。

のほかに同校では、これまでも地元で伝わる河童伝説を“調べ学習”のテーマにして、その成果をミュージカル劇「光明寺のかっぱ」として発表するなど、川や河童にちなんだ地域学習がとても盛んです。

また4年生のときには、同じ日野町内の根雨小学校と共同で「カヌー教室」があります。生徒たちにとっては、日野川の流れを体で感じられる初めてのとき。しかし嫌がる子はほとんど無いそうで、ここからも川に親しんでいる様子が見えられます。「カヌー教室のときに川で遊んだ経験が懐かしい」という卒業生も多いそうです。



日野川での昆虫調べの様子

